

高温障害に負けない米作りのために、適切な水管理を行いましょう！

## 水管理のポイント

高温対策には、稲体の温度を低下させるためのこまめな水管理がポイントです。水管理で最も重要なことは、**水不足にしない**ことです。根から水を十分に吸収させ蒸散を活性化し、稲体の温度上昇を軽減させましょう。

| 生育<br>ステージ | 移植 | 活着 | 分げつ期 |     | 幼穂形成期 | 出穂期  | 登熟期  | 成熟期 |
|------------|----|----|------|-----|-------|------|------|-----|
| 水管理        | 湛水 | 浅水 | 間断灌水 | 中干し | 間断灌水  | 常時湛水 | 間断灌水 | 落水  |



- 中干し前後は、**間断灌水**により**水と酸素を与え**、根と幼穂形成の活性を促進させます。  
→間断灌水とは？  
水尻を止め3cm程度の浅水状態に入水する⇒自然に落水するのを待つ⇒再び入水する を繰り返します。  
入水するタイミングは自然落水して1～2日後の田面の土が乾き切る前です。乾かしすぎは逆効果になるので注意します。
- 出穂後は、**稲の成熟にとって水が必要不可欠です**。田面が乾かないように登熟期前半までは湛水状態を保ち、登熟期後半は間断灌水を行いましょう。落水は、収穫7日前に行います。

## 中干しの効果とポイント

### 効果① 根を健全にする

中干しにより土壤に酸素を補給することで、根張りの向上やガス湧の軽減などに繋がり、倒伏や高温障害にも強くなることが期待できます。

### 効果② 過剰な分げつを抑制する

分げつが過剰になると、穂数や籾数が必要以上に増加し、籾のデンプン充実度が下がり、乳白粒などの原因になります。中干しにより、稲の窒素吸収を抑えることで、過剰な分げつを抑制します。

### 効果③ 田面を硬化させる

中干しにより土壤が硬化すると、収穫前に早期落水をして土壤を硬化させる必要がなくなるため、登熟期後半まで稲に十分な水分を供給することができ、登熟の向上効果が期待できます。  
また、土壤が硬化することで、コンバインなどの機械作業もスムーズに行うことができます。

## 中干しのポイント

#### ○中干し開始の目安

莖数（穂数）が目標の8～9割を確保した頃に開始します。  
田植え後約40～45日。

#### ○中干しの期間

基本的に5～7日間。圃場の条件によって期間を調整します。

#### ○中干しの程度

田面にひび割れができ、軽く足跡が残る程度まで干します。

| 品種    | 田植え時期 | 中干し開始  |
|-------|-------|--------|
| コシヒカリ | 5月上旬  | 6月中旬頃～ |
| ほしじるし | 5月下旬  | 7月上旬頃～ |
| ハツシモ  | 6月上旬  | 7月下旬頃～ |



⚠ 過剰な中干しは稲の断根を引き起こし、その後の生育に悪影響を及ぼすので注意しましょう！